

# 『一人の笑顔のために』

## 青少年赤十字(Junior Red Cross)

本年度、三加和中学校はJRC（青少年赤十字）に加盟しました。第一次世界大戦中、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリアの子どもと先生達は戦争で苦しむヨーロッパの人々をなぐさめ励ますため、手紙やプレゼントなどを赤十字を通して届けました。これがきっかけとなり「青少年赤十字」は、1922年に誕生しました。今年で100年になります。

### 「青少年赤十字」とは・・・

青少年赤十字（JRC）は、児童・生徒が赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切に、地域社会や世界のために奉仕し、世界の人々との友好親善の精神を育成することを目的として、さまざまな活動を学校教育の中で展開しています。

青少年赤十字では、これらの目的を達成するために、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の3つの実践目標を掲げています。

**「健康・安全」**：生命と健康を大切にする。

**「奉仕」**：人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、実行する。

**「国際理解・親善」**：広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う。

また、子供たちの主体性を育むために**「気づき」「考え」「実行する」**という態度目標を掲げています。

### 赤十字のはじまり・・・

スイス人の実業家アンリー・デュナンは1859年6月、フランス・サルディニア連合軍とオーストリア軍の間で行われたイタリア統一戦争の激戦地ソルフェリーノの近くを通りかかりました。そこで見たものは、4万人の死傷者が打ち捨てられているという悲惨なありさまでした。デュナンは、すぐに町の人々や旅人達と協力して、放置されていた負傷者を教会に収容するなど懸命の救護を行いました。「傷ついた兵士はもはや兵士ではない、人間である。人間同士としてその尊い生命は救われなければならない」との信念のもとに救護活動にあたりました。

ジュネーブに戻ったデュナンは、自ら戦争犠牲者の悲惨な状況を語り伝えるとともに、1862年11月『ソルフェリーノの思い出』という本を出版しました。この中で、以下の必要性を訴えました。

- (1) 戦場の負傷者と病人は敵味方の差別なく救護すること
- (2) そのための救護団体を平時から各国に組織すること
- (3) この目的のために国際的な条約を締結しておくこと

この訴えは、ヨーロッパ各国に大きな反響を呼び、1863年2月赤十字国際委員会的前身である5人委員会が発足、5人委員会の呼びかけに応じてヨーロッパ16カ国が参加して最初の国際会議が開かれ、赤十字規約ができました。この規約により各国に戦時救護団体が組織され平時から相互に連絡を保つ基礎ができ、デュナンの提案の一つが実現しました。そして翌1864年には、ヨーロッパ16カ国の外交会議で最初のジュネーブ条約（いわゆる赤十字条約）が調印され、ここに国際赤十字組織が正式に誕生したのです。

